

Ⅱ 少人数学級編制について

平成28年度“教育山形「さんさん」プラン”

1. 基本方針

- ① 少人数学級編制【小学校1年生～中学校3年生】
 - ※ 小学校1年生、国による35人以下学級の実施
 - ※ 小学校2年生、定数加配を活用した35人以下学級の実施
- ② 特別支援学級 学級編制基準の引き下げ【8人→6人】
- ③ 重要施策の継続実施 ア 小学校低学年副担任制 イ 別室学習指導教員（中）
- ④ 中学校指導方法工夫改善の実施
- ⑤ 教育マスター制度 ア 退職教員活用型（小） イ OJT支援員型（小） ウ マイスター型（中：指導方法工夫改善の活用）

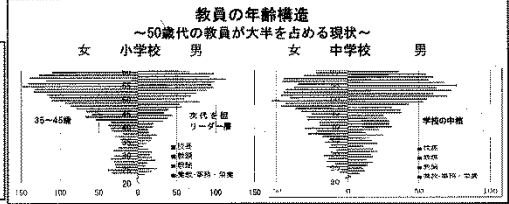
2. 施策内容

小		学				校		
小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
国：35人以下学級			国：40人以下学級					
①少人数学級編制 (18人～33人)		①少人数学級編制 (18人～33人) ※学年の人数が36～40人の場合は、2学級に分け、国加配による常勤講師を配置			①少人数学級編制 (21人～33人) ※学年の人数が34人～40人の場合は2学級に1人の割合で非常勤講師を配置 ただし、中学校1年生は1学級に1人の非常勤講師を配置			
②特別支援学級 学級編制基準の引き下げ (8人→6人) ※学級の人数が7～8人の場合は、2学級に分け、増加学級分に非常勤講師を配置								
③ア：小学校低学年副担任制 【小1プロブレム対策】 ※学年の人数が34人・35人の場合は、副担任として、非常勤講師を配置					③イ：別室学習指導教員 【別室登校・不登校対策】 ※別室登校生徒の支援のため非常勤講師を配置			
					④指導方法工夫改善 【学力向上対策等】 ※指導方法工夫改善のための常勤講師等を配置			
⑤ア：退職教員活用型 【OJT、授業改善の充実による学力向上対策】 ※優れた指導力をもつ退職教員を非常勤講師として配置					⑤ウ：マイスター型 (単年) 【OJT、授業改善の充実による学力向上対策】 ※中堅教員が継続的・実践的に研修 ※指導方法工夫改善加配の担任外が2名以上の学校、国のアクティブ・ラーニング加配の配置校において1人を充てる			
⑤イ：OJT支援員型 【OJT、授業改善の充実による学力向上対策】 ※「教育マスター」のOJTを支援する非常勤講師を配置					← 小中連携 →			

平成28年度「教育マスター制度」の概要

目標 教員の資質・能力の向上と指導技術を高める授業改善・OJTの充実

1. 「確かな学力」育成のために、研修環境を充実することでOJTの実効性を高め、教員一人ひとりの指導力の向上を図る。
2. 今後見込まれる教員の大量退職に備え、次代のリーダーとなる人材を育成するために、「探究型学習」を核とした授業改善・OJTの充実を図る。



	退職教員 非常勤講師	制度	求められる人材	配置校	役割・勤務等
小学校		■優れた指導力をもつ退職教員を「教育マスター」として雇 非常勤講師:17人 ・優秀な退職教員を非常勤講師として配置 ・授業改善・OJTへの助言、示範授業等を 通じた課題に対する即効性のある対応 ・T、Tによる、指導技術等の伝承	① 年齢 ・65歳程度 ② 資質・能力 ・学習指導や学級経営に優れた実績がある者 ・人間力があり、周囲の信頼が厚い者 ・「教育マスター」事業を理解し、後継者の育成に熱意をもっている者	・配置希望校は「学力向上対策計画」を提出 ・その中から、より実効性の高い学校を義務教育課と教育事務所で選考して配置 ・1年目の2月に報告書と次年度の「学力向上計画」の作成・提出を受け、2年目継続を決定する。 (H28配置) 退職 OJT 村山 8 12 最上 1 5 置賜 5 7 庄内 3 9 合計 17 33	① 授業改善を支援する ・授業を参観して、指導、助言する ・T、Tにより、授業参加する ② 教員の指導力向上に向けて指導する ・熟達者としての指導技術等を伝達する ・示範授業を提供する ③ 勤務条件 ・週30時間 1日6時間 例) AM10:30～(放課後事後指導等が可能) ④ 報酬 ・1時間当たり2,000円
		■校内の優れた教員を「教育マスター」として育成し、活用 ■「教育マスター」の業務を補助するOJT支援員を配置 非常勤講師:33人 ・教育マスターのコーディネートによる、組織的・日常的・実践的なOJTの充実(非常勤としてOJT支援員を配置し、教育マスターの校内授業参観・校外研修参加やその他の教員の校内授業研参加の後補充等を担う)	① 年齢 ・概ね長期研修・中央研修派遣者と同年代 ② 資質・能力 ・学習指導や学級経営に優れた実績がある者 ・人間力があり、周囲の信頼が厚い者 ・協力的で、組織をマネジメントでき、OJTの推進リーダーになることができる者 ・「教育マスター」事業を理解し熱意をもって取り組む者 ※校務分掌に明示する。なお、業務を積極的に推進できるよう、校務分掌を軽減する。	・指導方法工夫改善加配による担任外が2名以上の学校 ・園のアクティブ・ラーニング加配の配置校 (H28配置) 村山 4 最上 2 置賜 3 庄内 2 合計 11	① 授業改善を支援する ・授業を参観して、指導、助言する ・OJTをコーディネートする ・「探究型学習」を推進・実践する ・研修会を効果的に運営する ・最新の情報を収集・提供する ③ 勤務条件(OJT支援員) ・週30時間 1日6時間 例)AM8:30～(授業参観の後補充等) ④ 報酬 ・1時間当たり1,500円
中学校		■次代のリーダーとして期待される中教員を継続的・実践的な研修により「教育マスター」として育成し、活用 11人 ・「マスター育成研修(別紙)」による、「探究型学習」について深い理解と実践力をもったマスターを育成 ・「探究型学習」による「活用する力」の育成に重点をおいた授業改善・OJTの充実 ・学区の小学校に対し、小中の学力向上の連携を核とした指導・助言	① 年齢 ・概ね長期研修・中央研修派遣者と同年代 ② 資質・能力 ・学習指導や学級経営に優れた実績がある者 ・人間力があり、周囲の信頼が厚い者 ・協力的で、組織をマネジメントでき、OJTの推進リーダーになることができる者 ・「教育マスター」事業を理解し熱意をもって取り組む者 ・将来、地域のリーダーとしての活躍が期待できる者 ③ 任命 ・当該校の教諭の中から、原則として、校長の意見を聴いて、当該校を所管する市町村教育委員会が命じる ・校務分掌に明示する。なお、業務を積極的に推進できるよう、校務分掌を軽減する。	・指導方法工夫改善加配による担任外が2名以上の学校 ・園のアクティブ・ラーニング加配の配置校 (H28配置) 村山 4 最上 2 置賜 3 庄内 2 合計 11	① 授業改善を支援する ・授業を参観して、指導、助言する ② OJTをコーディネートする ・「探究型学習」を推進・実践する ・研修会を効果的に運営する ・最新の情報を収集・提供する ③ 学区の小学校へ指導・助言する(免許教科を主に) ④ 「マスター育成研修」に参加する

少人数学級編制等推進事業・教育マスター推進事業

平成28年度教育マスター制度 マスター育成研修【中学校：マスター型】

義務教育課

本事業の目的 探究型学習の取組において指導的な役割を担う中核教員の育成・他校での指導により、県内全体の教員の資質・向上を図る。

マスターの育成

教育マスター：自校及び周辺校において、授業でのチームティーチングや校内研究の運営への指導・助言等を行い、探究型学習及び児童生徒の学力向上のための取組を校内から推進する中核教員

<p>ベーシック研修 共通理解を図る</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 探究型学習推進のための校内研究の在り方、指導方法を指導するための研修であることを確認(中核教員としての意識の醸成) ② 授業実践をもとにした協議・交流及び中央講師からの指導・助言(児童生徒の考察をもとにしたより実効性の高い授業の検討) ③ 研修成果のまとめ、対象教員に対する研修の評価(研修の成果について評価し、次年度に生かす) 	<p>4月</p> <p>ベーシック研修①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月18日(月) 全日 ・山形県教育センター ・事業説明 ・研修(探究型学習、OJT) 	<p>9月</p> <p>ベーシック研修②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月28日(水) 全日 ・山形県教育センター ・授業参観 ・中央講師による講義 		
	<p>グループ研修(視察型)(滞在研修) 大学教授等の指導者とともに優れた実践をもとに学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 優れた実践を積み重ねている学校の指導者及び大学教授等との協議(優れた実践作りの手順や要点を的確にとらえる。) ② 幼稚園・保育園・小学校の実践をもとに、幼保小の教員及び大学教授等との協議(幼稚園・小学校との系統性の重要性について学ぶ) ③ 優れた実践を蓄積している学校に1週間滞在して研修する。(放課後の研究協議等に参加し、研究運営方法について学ぶ) 	<p>グループ研修(視察型)①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全日(県内)「探究型学習」に関する内容 ・推進協力校か山形県小中の公園を原則 ・各教育事務所単位のグループ ・研修希望調査により、義務教育課が調整 ・グループで協議し、研修先を決定 ・申込み等の準備はグループで実施 		<p>グループ研修(視察型)②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2日(県外)「探究型学習」に関する内容 ・各教育事務所単位のグループ ・研修希望調査により、義務教育課が調整 ・決定後は、グループ代表を中心に受入担当者と連絡を取り合ってグループで準備
	<p>グループ研修(教育事務所単位の研修) 自学級での授業作りを核とした探究型の研修</p> <p>研修のねらい・課題を意識した授業作り・実践・検証(互いの学級により効果のある探究型学習について検討し、実践力を高め、PDCAサイクルを機能させた授業の質的向上を図る) ※教育事務所の計画と支援による</p>	<p>グループ研修(滞在研修)③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5日(県内外問わず)「探究型学習」に関する内容 ・各事務所1名を原則 ・義務教育課が、研修希望内容を精査し、参加者を決定、日程等と合わせて通知 ・決定後は、受入先担当者との連絡を取り合って各自準備 		<p>グループ研修(教育事務所単位の研修) 探究型を中軸とした単元開発等 3～5日</p>
	<p>校内研修の運営・推進 グループ内の学校の研究会に参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 教諭の資質能力を確実に高める研修の在り方の開発 ◆ 研修・研究リーダーとしてのマネジメント力の向上 	<p>校内研修の運営・推進⇒日常的な授業改善の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修のコーディネート、指導・助言・他学級の授業参観・自身の授業公開 ・校外研修において収集した先進・優良な情報の還元 回数とは随時 		<p>グループ研修(教育事務所単位の研修) 探究型を中軸とした単元開発等 3～5日</p>
<p>マスターの活用</p> <p>他校への出前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 他校の研修・地区研修会等での指導・助言 ◆ 校内研修の進め方についての助言(出前指導を通しての中核教員としての資質向上及び他校での探究型学習推進) 	<p>他校(域内の小学校等)への出前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・域内各小学校へ1～3回 ※学校や学区の実態に準じ、回数を調整する。 ・域内小学校における授業研究会の事前・事後検討会等に参加 ・学校間で日程等を調整、所属長の出席命令により訪問 ・旅費は、各教育事務所宛、配当替え申請 	<p>ベーシック研修③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月2日(木) 全日 ・山形県教育センター ・研修の実績報告 		

総日数
18日程度



子ども同士が精一杯考え合い

個の能力を最大限に伸ばす

～ 学習意欲を喚起し、考えや解決の見通しをもたせる「課題提示」 ～

- 日常場面や生活との関連を図った魅力的な教材や高みの問題を提示し、一人ひとりが主体的に学習に取り組むことができるように工夫する。
- 「問題を自力で解く・他者とかかわりながら解く」「教材文を読み、考えを書く」「事象・現象・情報を分析する」「実験・考察する」「体験する」等を効果的に取り入れ、一人ひとりが自分の考えや解決の見通しをもつことができるようにする。

～ お互いの考えが認められ、目的に応じて練り上げられる「学び合い」 ～

- お互いの考えを出し合い、友達のととの共通点や相違点をもとに話し合わせたり、誤答を活かした学習活動を取り入れたりすることで、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。
- ねらいに応じて、記録、要約、批評、説明、論述する等の言語活動を取り入れ、児童生徒の学び合いが深まるようにする。

～ 子どもの考えを活かした「納得感のあるまとめ・振り返り・練習」 ～

- 本時のねらいに対応した自分なりの「まとめ」、できるようになったことやよくわからないこと、今後さらに学んでいきたいこと等を確認する「振り返り」、より深い理解に向かう効果的な「練習（問題）」を通して、学習内容を確実に定着できるようにする。
- 自分の見方や考え方の変容を認識し、次の授業や家庭学習への意欲を喚起できるようにする。

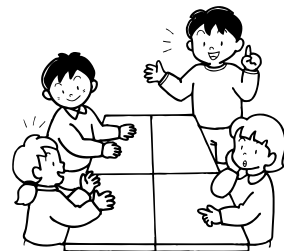
学級規模を活かす

～ 少人数学級（33人以下）の特性を活かした授業 ～

- 教員が一人ひとりと丁寧に向き合える環境を活かして、児童生徒のニーズを的確にとらえるとともに、ユニバーサルデザインの視点を取り入れることで、必要なときに、適切な内容で的確に支援できるようにする。
- 小集団に分かれての学習では、それぞれの様子が把握しやすいことや的確に助言できることを活かし、児童生徒が主体的・協働的に課題を解決する「探究型学習」を積極的に推進する。



表現し合う授業をめざして



～ 複式学級の特性を活かした授業 ～

- 直接指導・間接指導の特性や連続に配慮し，目的意識や見通しをもたせ，児童生徒が主体的・協働的に課題を解決できるようにする。
- 異学年間の伝え合いや学び合い，発表の場を学習計画に取り入れ，かかわりの中で互いを高め合うことができるようにする。

～ 多人数学級における協働的な指導の工夫 ～

- コース別学習やチーム・ティーチング等の指導の工夫ができるように教員の協力体制を機能させ，個に応じた指導の充実を図る。

変化する時代を生きぬく力を育む

～ 人間関係を豊かにする自己表現力やコミュニケーション能力の育成 ～

- 対話を取り入れた様々な形態の学習活動を通して，他者の考えを受け入れながら自らの考えを広げたり深めたりできるようにする。
- 異なる文化や生活習慣，障がいの有無等の違いを認め合い，協調しながら，互いに支え合い，高め合う関係づくりができるようにする。

～ 一人ひとりの勤労観・職業観を育むキャリア教育の充実 ～

- 発達の段階に応じて職業人，社会人，文化人等の生き方に触れ，児童生徒一人ひとりが自らの在り方や生き方に向き合うことができる学習を充実させる。
- 職場体験やインターンシップなどの体験的学習の教育的価値を一層高めるよう実施方法，内容を工夫する。

～ 数学的な見方で考えることのよさを実感できる算数・数学の授業 ～

- 充実した算数的活動・数学的活動を通して，児童生徒が学んだことを生活や他の学習に活用し，学ぶ意欲を高めるとともに，数学的な見方で考えることのよさを実感できるようにする。

～ 科学への関心を高め，科学的な見方・考え方を育成する理科の授業 ～

- 身近な生活との関連から学習内容を充実させ，児童生徒一人ひとりが目的をもって観察・実験等を行うことにより，科学への関心を高めるとともに科学的な見方・考え方を育成する。

～ 小中高の接続を意識した外国語教育の展開 ～

- 各学校段階における目標や基本的な考え方を十分理解し，小中高の接続や学習経験を踏まえた外国語教育の充実を図る。
- 特に，中学校においては，小学校で培われたコミュニケーション能力の素地を十分に踏まえた指導を工夫する。